

第1回下野市中学生海外派遣団が帰国

第1回下野市中学生海外派遣団(引率者含め37名)が8月4日(月)から10日(日)までの7日間、ドイツの姉妹都市ディーツヘルツタールを訪れました。「迎えてくれた姉妹都市の人達に感動した」「言葉の壁があって心配だったけど、ホストファミリーが優しく良かった」「姉妹都市に友達ができてとても嬉しかった」等々、下野市の中学生たちは、姉妹都市の人々との深い交流と大きな思い出を胸に故郷・下野市に帰ってきました。



ディーツヘルツタール市内の日本庭園にて



ホルダベルク中学校見学

中学生1人が1家庭にホームステイをして、家族の一員としてドイツの一般家庭での生活を体験しました。はじめは言葉や文化の違いに不安と緊張の表情でしたが、現地の中学生が企画してくれたスポーツ交流を通して、言葉の壁という大きな障壁をもとせずに、笑顔で積極的にコミュニケーションをとる姿が見られました。

姉妹都市の中学生が通う中学校を訪問した際には、現地の中学生に案内してもらいながら校舎内を見学しました。実際にドイツの授業を受けたり、食堂で一緒に昼食をとったりと、主に英語でコミュニケーションをとり、ジェスチャーも交えながら楽しく交流しました。

また、ライン川下り、教会、古城の跡などを見学し、ドイツの歴史、文化を肌で感じる事ができ、派遣団員それぞれが充実した毎日をお過ごししました。

滞在4日目の夜には歓迎パーティーが開かれ、姉妹都市関係者やフランクフルトの日本大使館副領事を含む約200名が参加しました。ドイツの中学生がプラスバンド、ダンス、歌等様々な催し物で下野市の派遣団を歓迎してくれた後、お礼として下野市の中学生から日本の歌の合唱、書道を披露し、会場から大きな拍手が沸き起こりました。



学校食堂で昼食